

2021年 9月 3日



芦屋市議会議長
松木義昭 様

加齢性難聴者の補聴器購入への公的助成を求める請願書

70歳を超えると約半数が難聴になると言われ、加齢性を含む難聴者は約1,000万人と推計されています。

難聴によってコミュニケーションがうまくいかなくなると、家族や社会から孤立し生活の質や生きる意欲まで低下してしまいます。難聴を放置した場合の認知症発症リスクは、健聴者に比べ軽度の難聴で2倍、中度の難聴で3倍、重度の難聴では5倍という研究結果もあります。

日本の難聴者率は欧米諸国と大差はないものの、補聴器保有率は半分以下であることが民間の調査で明らかになっています。この一因には身体障害手帳の対象とならない軽度・中等度の難聴者が、一台(片耳)数万円から数十万円もする補聴器を自費で購入しなければならないことが挙げられます。

補聴器への公的支援が手厚い欧米と比べ、日本の対応は遅れており、早急に公的助成制度の創設が求められています。

加齢による難聴は、誰にとっても等しく起こる可能性があります。加齢性難聴者に補聴器の普及を促進し、よりよい「聞こえ」を保障することは、健康寿命を延ばすことにもつながります。

つきましては、下記の事項について請願します。

記

請願項目

「加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的助成制度の創設を国に求める意見書」を芦屋市議会として採択され、政府や国会に提出されるよう求めます。

以上

請願者 全日本年金者組合

芦屋支部

支部長 田中恵美子

芦屋市若葉町

TEL.

紹介議員

平野 貞雄 中村 克介 川島 あゆみ